

サブキャパシティー・ライセンスに関する FAQ（よくあるご質問）【日本語版】

こちらの日本語版 FAQは、2013年12月時点の情報です。

最新の英語版FAQならびに原文は Sub-capacity licensing FAQsをご参照ください。

→ ibm.com/software/lotus/passportadvantage/subcapfaqov.html

目次

- **全般**：サブキャパシティー・ライセンス全般に関するよくある質問
- **ご契約条件**：サブキャパシティー・ライセンスに関するご契約条件についてよくある質問
- **ライセンス管理ツール**：ライセンス管理ツール (ILMT) についてよくある質問
- **ご注文**：サブキャパシティー・ライセンスと管理ツールのご注文についてよくある質問
- **コンプライアンス**：ライセンス条件遵守に関するよくある質問

全般：サブキャパシティー・ライセンス全般に関するよくある質問

Q1

サブキャパシティー・ライセンスとは何ですか？ これまでIBMが提供してきたライセンスとの違いは何ですか？

A1

サブキャパシティー・ライセンスは、ソフトウェア・プログラムが対象仮想化環境に導入されたときに、サーバー上の全プロセッサ・コア・キャパシティーより少ないキャパシティーに対して、プロセッサ・Value Unit (PVU) に基づくソフトウェア・プログラムの使用を許諾します。フルキャパシティー・ライセンスでは、ソフトウェアがどのように使用されていようとも、お客様はサーバー上のすべての活動化されたプロセッサ・コアに対してPVUライセンスを取得する必要があります。

IBMパスポート・アドバンテージ-サブキャパシティー・オフリングは、下記を可能とします。

- 共用プロセッサ・プール、マイクロ・パーティショニング、仮想マシン、リソースの動的再配置といった先進的な仮想化機能を使って柔軟なソフトウェア・ライセンス許諾を可能にします。
- IBMのプロセッサ・Value Unitの課金体系は、ソケット単位の課金または個別要件による課金と違い、コンピューター能力をお客様の得られる価値と連携させることで、単純さと精密性を両立させます。
- IBMソフトウェアを稼働させる区画で利用可能なプロセッサ・コア・キャパシティーに対してのみ、ライセンスを取得することを可能にします。
- IBMのプロセッサ・Value Unitに基づくミドルウェアのプロセッサ・コア・キャパシティーを追跡、管理することが可能なツール (ILMT) を提供します。

Q2

フルキャパシティー・ライセンスとは何ですか？ どのようにサブキャパシティー・ライセンスと関連していますか？

A2

フルキャパシティー・ライセンスは物理サーバーのすべての物理的な活動化されたプロセッサ・コアに基づいて使用許諾されます。サーバーが、ひとつのソケットに差し込まれたひとつのチップ上の1プロセッサ・コアで構成されていた時代には、ソフトウェアはフルキャパシティーに基づき使用許諾されていました。フルキャパシティー・ライセンスの概念は、マルチ・コアやマルチ・ソケット・サーバーが拡大している今でも変わりなく、使用許諾の方法は基本的には単純です。しかし、パーティショニングや区画間の移動、速やかなサイズ変更が可能な仮想CPU、仮想サーバー/区画（例えば仮想マシン、LPARなど）を作ることができる、より先進的なサーバー仮想化テクノロジーの登場により、より柔軟なライセンス条件が求められるようになりました。そこでIBMはサブキャパシティー・ライセンス・オフリングを2005年に発表しました。IBMはRISCやx86プラットフォーム、Linux on System zを含む、業界において最も広範囲な仮想化テクノロジーのサポートを行っています。また、IBMはおお客様の契約条件の遵守維持を支援するツールを提供する唯一のベンダーでもあります。

→ サブキャパシティー・ライセンス・オフリングを2005年に発表

 ibm.com/common/ssi/rep_ca/2/760/SWG05012/index.html

Q3

サブキャパシティー・ライセンスの使用状況を追跡するため、ツールの使用は必要とされていますか？

A3

はい。2009年7月31日の「サブキャパシティー・ライセンス – IBM License Metric Tool V7.2の発表と対象仮想化テクノロジーの追加について」の発表に伴い、サブキャパシティー・ライセンス使用条件のライセンス管理ツールとしてILMT (IBM License Metric Tool) の使用が発表されました。ILMTの使用はパスポート・アドバンテージご契約条件で規定されており、常に最新のバージョン、リリースで運用いただく必要があります。

→ サブキャパシティー・ライセンス – IBM License Metric Tool V7.2の発表と対象仮想化テクノロジーの追加について

 ibm.com/common/ssi/ShowDoc.wss?docURL=/common/ssi/rep_ca/2/760/SWG09022/index.html&lang=ja&request_locale=ja

Q4


お客様はIBMにライセンスの使用状況を報告する必要がありますか？

A4

いいえ。お客様はサブキャパシティー・ライセンスの使用条件にそって、ILMT環境を構築いただき少なくともと四半期ごとに監査レポートを生成いただきます。

当該監査レポートはIBMミドルウェアが利用可能なPVUキャパシティーに対して継続してライセンス遵守の管理を行っている証明として、最低でも2年間は監査レポートを保持しなければなりません。サブキャパシティーの条件により、お客様はIBMからの要求があればそのレポートをすぐに提出できるようにしておかなければなりません。（参照：パスポート・アドバンテージご契約条件「3.2.3 サブキャパシティー・ライセンスの条件に基づくお客様の責任」）

→ パスポート・アドバンテージご契約条件

 public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/PA_Agreements/PA_Agreement_Japanese.pdf

Q5

System zソフトウェアにSCRTが使われるのと同様に、四半期ごとに仮想化環境におけるキャパシティーの使用状況をIBMに報告しなければいけませんか？

A5

いいえ。SCRT (Sub-Capacity Reporting Tool) はSystem z 向けのソフトウェアをサポートするためにのみ使用されます。System z 向けのソフトウェアに対するサブキャパシティー・ライセンスについては、Sub-Capacity Corner をご参照ください。

→ publibfp.boulder.ibm.com/epubs/pdf/g8860020.pdf

Q6

System z (メインフレーム) と分散系サーバーのサブキャパシティー・オフリングの違いは何ですか？

A6

両方のオフリングで、お客様がサブキャパシティー・ライセンスが適用されている環境を監視するのを助ける無償のツールの導入を必要とする個別の契約が必要です。SCRTはメインフレームに、ILMTはSystem zのIFLやエンジンで稼働するLinuxを含む分散系サーバーのプラットフォームで使用されます。SCRTは定期的なIBMへのレポート提出を必要としていますが、パスポート・アドバンテージのサブキャパシティー・オフリングでは、お客様はILMTで生成されたレポートを最低でも2年間は監査用としてライセンス条件への遵守を証明するために保持する必要があります。

Q7

サブキャパシティー・ライセンスはプロセッサ Value Unitに基づく料金体系ではない他のサーバーのソフトウェア製品でも利用できますか？

A7

いいえ、サブキャパシティー・ライセンスの柔軟性はプロセッサ Value Unitに基づく料金体系の製品にのみ利用可能です。ほとんどのお客様は年次のソフトウェア・サブスクリプション&サポートの更新の際に、以前のエンタイトルメント(プロセッサに基づくライセンスなど)から移行しています。なお、“ソケット単位”の料金体系を使っている一部の“workgroup”製品もサブキャパシティー・ライセンスの対象です。

Q8

プロセッサ Value Unitに基づく料金体系の製品かどうかはどのように判断したらいいですか？

A8

ほとんどの場合、製品名にライセンスの課金単位が含まれています。

以下のリンクからパスポート・アドバンテージの料金やライセンスの情報が確認できます。

→ [IBM License Information document database](#)

ibm.com/software/sla/sladb.nsf/search

→ [パスポート・アドバンテージ・オンライン \(PAオンライン\)](#)

ibm.com/software/jp/passportadvantage/pao.html

→ [ソフトウェア製品検索](#)

ibm.com/software/products/ja

Q9

サブキャパシティーの料金決定の算出方法は何かですか？

A9

物理コアまたは仮想コアのいずれか少ない方の全プロセッサ・コアに対して課金します。ソフトウェア・ライセンスに対する最少の発注数は、1プロセッサ・コアに対する適切なPVU数です。この使用許諾はIBMミドルウェアが利用可能な(PVUで表される)プロセッサの処理能力に基づき行われます。仮想キャパシティーの合計、またはサーバーもしくはフルキャパシティー(物理キャパシティー)のいずれか少ない方に対してライセンスを取得してください。

※ 特定のサブキャパシティー対象のx86の仮想環境にのみ適用

Q10

すべてのサブキャパシティー対象の仮想化環境において、サーバー上の1プロセッサ・コアに対してPVUライセンスを取得できますか？

A10

はい、取得できます。対象の仮想化環境については、eligible processor technologiesとeligible virtualization technologiesをご参照ください。

→ [eligible processor technologies](#)

 ftp://software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Eligible_Processor_Technology.pdf

→ [eligible virtualization technologies](#)

 ftp://software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Eligible_Virtualization_Technology.pdf

Q11

すべてのサブキャパシティー対象の仮想化環境において、サーバー上の1プロセッサ・コアより少ないコアに対してPVUライセンスを取得できますか？

A11

いいえ、取得できません。ソフトウェア・ライセンスの最小必要数は、当該1プロセッサ・コアに対して適用されるPVU数となります。

Q12

VMware仮想化環境の仮想マシン (VM) で必要なPVU数はいくつですか？

A12

PVUライセンスは、IBMミドルウェアが利用可能な(PVUで表される)プロセッサの処理能力に基づきます。VMwareの場合は、仮想CPU数(VMware用語で言うvCPU)に基づきます。それぞれのvCPUは、PVUライセンスに対する1プロセッサ・コアと同等です。vCPUの合計またはサーバーのフル(物理)キャパシティーのいずれか少ない方に対してライセンスを取得してください。詳細は、Virtualization Capacity License Counting Rulesで確認することができます。

→ [Virtualization Capacity License Counting Rules](#)

 ibm.com/software/lotus/passportadvantage/Counting_Software_licenses_using_specific_virtualization_technologies.html

Q13

サブキャパシティー対象のPowerVM仮想化環境の区画に必要なPVU数はいくつですか？

A13

PVUライセンスは、IBMミドルウェアが利用可能な（PVUで表される）プロセッサの処理能力に基づきます。PowerVM区画の場合は、区画モード（capped/uncapped）に応じて区画で利用可能な仮想プロセッサ・コア能力に基づきライセンスが必要です。

小数点以下のコア数で設定された区画（capped区画）の場合、小数点以下を含めてプロセッサ・コアを合計した後、共用プールのcappingルールを適用し、サーバー・レベルで整数へ切り上げます。

IBMは仮想コアの合計またはそのサーバーのフル（物理）キャパシティーのいずれか少ない数で使用許諾します。

詳細につきましては、Virtualization Capacity License Counting Rules (https://www.ibm.com/software/passportadvantage/Counting_Software_licenses_using_specific_virtualization_technologies.html) から、このケースを最も良く説明しているIBM Power Systems (https://public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Scenarios_Power_Systems.pdf) をご確認ください。

Q14

なぜいくつかのPVU製品はサブキャパシティー・ライセンスの対象外なのですか？

A14

例外製品は、一般的に仮想化サーバー環境に対応していないため、フルキャパシティーでのライセンスの取得が必要です。対象外の製品はPassport Advantage Sub-capacity Licensing Eligible Product Statementで確認することができます。

→ ftp://ftp.software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Sub_Capacity_Eligible_Programs.pdf

Q15

ExpressとWorkgroup製品はサブキャパシティー・オフリングの対象ですか？

A15

はい、対象です。課金単位がPVUであればご利用可能です。Express製品のサブキャパシティーの柔軟性は、以下の文書に記述される、PVUやコンピューティング・キャパシティーに関する制約事項を変更するものではありません。

→ [Licensing Guidance](#)

<ftp://ftp.software.ibm.com/software/smb/pdfs/LicensingGuide.pdf>

→ [Pricing Guidance](#)

<ftp://ftp.software.ibm.com/software/smb/pdfs/PricingGuide-1206.pdf>

Q16

2009年5月に発表の特定のInformation Management “workgroup”製品のLimited Use Socket料金体系の製品はサブキャパシティー・オフリングの対象ですか？

A16

はい、対象です。それらの製品は現時点では、DB2 Workgroup, IDS Workgroup, Informix Warehouse for Workgroup Edition, InfoSphere Warehouse Departmental, and InfoSphere Warehouse Departmental Baseとなります。特定のWorkgroup製品がサブキャパシティー・ライセンスを活用できる一方、現在はサーバー・ワークグループが稼働する最大物理サイズは4ソケットです。LPARや他の仮想化テクノロジーを使用でき、使用しているソケットに対してのみお支払い下さい。しかしその物理サーバーのサイズは4ソケットより少なくはなりません。つまり、4ソケットより大きな巨大なPower Systemsサーバーをパーティションで区切って使用することはできません。


なお、DB2やIDSのExpress製品ではLimited Use Virtual Server料金体系のライセンスが提供されており、サブキャパシティーの対象です。物理または仮想マシンにつき1サーバーに対する料金がかかり、4コア、4GBメモリーまでに制限されています。

Q17

プロセッサ Value Unitに関するFAQ集はありますか？

A17

Processor Value Unit FAQ for customersをご参照ください。

→  [ftp.software.ibm.com/software/lotus/pub/lotusweb/passportadvantage/PVU/Processor_Value_Unit_Announcement_Customer_FAQ.pdf](ftp://ftp.software.ibm.com/software/lotus/pub/lotusweb/passportadvantage/PVU/Processor_Value_Unit_Announcement_Customer_FAQ.pdf)

Q18

サブキャパシティー・ライセンスを利用するにあたり、追加料金は発生しますか？

A18

対象製品にサブキャパシティー条件を適用するにあたって、お客様に対して追加ライセンス料金は請求しません。IBMはILMTを無償で提供します。お客様は基本的なインフラ（サーバー、ネットワークなど）やILMTを導入し、管理するための費用および要員を確保する責任があります。PowerVMやVMwareといった複雑な仮想化サーバー・テクノロジーを展開することができるお客様のほとんどは、ILMTを導入することができるでしょう。

Q19

サブキャパシティー・ライセンスはパスポート・アドバンテージとパスポート・アドバンテージ・エクスプレスの両方で利用可能ですか？

A19

はい、利用可能です。

Q20

サブキャパシティーはサブキャパシティー条件に同意した後の新しい注文にのみ適用されますか？

A20

2011年7月19日のパスポート・アドバンテージご契約条件の改定によりサブキャパシティー・ライセンスの利用条件は本契約に包含されました。

Q21

サブキャパシティー条件に同意する前に取得したフルキャパシティー・ライセンスをサブキャパシティーの環境で使用できますか？

A21

2011年7月19日のパスポート・アドバンテージご契約条件の改定によりサブキャパシティー・ライセンスの利用条件は本契約に包含されました。

Q22

16プロセッサー・コアのサーバーで、8プロセッサー・コアしか活動化していない場合、これもサブキャパシティーですか？

A22

いいえ。このケースでは、8つの活動化されたコアに対してフルキャパシティー・ライセンスの取得が必要となります。追加でプロセッサー・コアを活動化した場合は、追加でライセンスを取得する必要があります。サブキャパシティーは利用可能な8つの活動化されたプロセッサー・コアより少ない区画を設定した場合のみ適用されます。活動化されたプロセッサー・コアについては次の質問をご参照ください。

Q23

A23

サーバー上の活動化されていないプロセッサに対してライセンスの取得が必要ですか？

いいえ、必要ありません。IBMは、活動化されたコアに対してのみライセンス取得を要求しています。IBMのSystem p、System iのようなサーバーでは、将来のシステム拡張のため、ひとつまたはそれ以上のプロセッサ・コアが非活動化、またはターンオフの状態で納品されることがあります。

例えば、8つの物理コアを搭載したサーバーで、そのうち6つのコアだけが活動化された状態で出荷されたとします。これにより、お客様は将来必要なワークロードが増加したときに、追加で残りの2つのプロセッサ・コアを活動化させることが可能です。コアに基づくライセンスの場合、このサーバーは6つの活動化されたプロセッサ・コアしか持っていないことになります。お客様はサーバー上のすべての活動化されたプロセッサ・コアに対してのみライセンスを取得すればよいので、このケースでは残りの2コアについては活動化されるまではライセンスは必要ないということになります。

もうひとつのよくある例は、1プロセッサ・コアしか活動化されていない状態のデュアル・コア・チップを搭載しているサーバーのケースです。x86プロセッサ・コアを除くPOWER6などのほとんどのRISCプロセッサ・コアで可能です。繰り返しになりますが、これはIBMのPower Systemサーバーではよくある構成です。この例では、チップ上に2つの物理コアがありますが、ひとつのプロセッサ・コアしか活動化されていないので、ライセンスはこのひとつのプロセッサ・コアに対してのみ必要となります。例えば、もしこれがPOWER6をベースとしたIBM Power 550サーバーであれば、ひとつの活動化されたコアに対し120 PVU必要ということになります。

活動化されたプロセッサ・コアはサーバーで利用可能な物理プロセッサ・コアで、以下のプロセッサ・コアを含みます。

- サーバーがメーカーより出荷された時点で活動化（利用可能）されているプロセッサ・コア
- お客様がサーバー・メーカーからプロセッサ・コア活動化のためのコードを入手し、これに基づき活動化されたプロセッサ・コア
- 仮想化テクノロジー、オペレーティング・システムのコマンド、もしくはBIOS設定により、お客様によりキャパシティーが制限されているプロセッサ・コア

追加でプロセッサ・コアが活動化された際はいつでも、追加ライセンスが必要となります。

Q24

A24

ダイナミックLPARや仮想区画を使用の場合、どのようにしたら区画サイズの増減を追跡できますか？

いくつかのサーバー仮想化テクノロジーでは、お客様はお客様自身で必ず区画サイズを変更しなければなりません。お客様は、それらの変更を追跡し、区画サイズの調整後も契約条件を遵守するのに十分なライセンスを取得する必要があります。より高性能なサーバー仮想化テクノロジーを用いると、サイズ変更や区画の移動がお客様自身による変更作業なしで自動的に行うことが可能です。ILMTによりサポートされる仮想化テクノロジーに関しては、ツールがお客様が変更の追跡をするのを支援し、使用キャパシティーの最大値を記録します。お客様自身による変更作業の追跡が必要な環境では、お客様は、区画サイズの調整後にライセンス違反がないかを確認するために、システムログ等のその他のドキュメントを参照するか、管理プロセスに基づかなければなりません。

ご契約条件：サブキャパシティー・ライセンスに関するご契約条件についてよくある質問

Q1

対象環境の数は、どのように、そしていつ拡大されますか？

A1

パスポート・アドバンテージ-サブキャパシティー・オフリングの開始以来、IBMは継続的に新しいサーバー仮想化テクノロジーをサブキャパシティー・オフリングの対象に追加してきました。

IBMはその方針を継続し、さまざまな公開方法で新規の対象仮想化環境を発表していきます。その発表は通常の発表レターで行われます。しかし、仮想化サーバー技術の変化は早いいため、追加の対象仮想化テクノロジーがIBM License Metric Toolのサポート対象になったときに通知が受けられるように、お客様はMy Notificationsから購読手続きをする必要があります。手続き方法は [Q17](#) をご参照ください。Eligible Virtualization Technologyも合わせてご参照ください。

→ [My Notifications](#)

ibm.com/support/mynotifications

→ [Eligible Virtualization Technology](#)

[ftp.software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Eligible_Virtualization_Technology.pdf](ftp://ftp.software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Eligible_Virtualization_Technology.pdf)

Q2

IBMはサブキャパシティーの対象とILMTによるサポート拡張のため、他のハードウェアおよびソフトウェア・ベンダーと協業していますか？

A2

はい、協業しています。IBMは追加の仮想化環境を対象にすることでサブキャパシティー・オフリングを拡張し続けます。そのタイミングは、その新しい仮想化環境を監視したり、仮想化環境でのライセンスのカウント・ルールを明確に示せることを確認できたときになります。2006年4月以来、Sun社とHP社の提供するそれぞれのプラットフォームが現在もサブキャパシティーの対象であり、2008年7月にはVMwareが対象に追加されました。IBMは2009年4月8日付けの発表で対象となることが発表されたx86サーバー向け仮想化テクノロジーを追加するため、Microsoft社、Citrix Systems社などと協業してきました。IBMは引き続きお客様の要望や市場でのプレゼンスに基づき、追加のサーバー仮想化テクノロジーを評価していきます。

→ [2009年4月8日付けの発表](#)

ibm.com/common/ssi/ShowDoc.wss?docURL=/common/ssi/rep_ca/9/760/SWG09009/index.html&lang=ja&request_locale=ja

Q3

お客様はどのくらいの期間でILMTを導入しなければなりませんか？

A3

新たにサブキャパシティー・ライセンスを使用する場合は、対象仮想化環境上で最初の対象サブキャパシティー製品を導入されてから90日以内に最新のILMTを導入いただく必要があります。また既にサブキャパシティー・ライセンスを使用されているお客様で、ILMTのバージョンが最新ではない場合は、パスポート・アドバンテージご契約条件の「3.2.3 サブキャパシティー・ライセンスの条件に基づくお客様の責任」に基づき速やかに最新版のILMTへアップグレードする必要があります。

→ [パスポート・アドバンテージご契約条件](#)

public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/PA_Agreements/PA_Agreement_Japanese.pdf

Q4

サブキャパシティー・ライセンスの必須条件であるILMT使用に対する例外条件は何ですか？

A4

以下の4条件のいずれかに該当する場合、ツールの使用は必須ではありません。

- (1) ILMTがお客様の対象仮想化環境をまだサポートしていない場合。フィックス、新バージョン、リリース、モディフィケーションにより、その環境がサポートされるようになった際は、90日以内にILMTを導入する必要があります。お客様は、My Notificationsから購読手続きをすることにより、ILMTによる対象仮想化テクノロジーのサポート開始の通知を受けなければなりません。パスポート・アドバンテージのサイトで公開のEligible Virtualization Technologyも合わせてご参照ください。

→ My Notifications

 ibm.com/support/mynotifications

→ Eligible Virtualization Technology

 ftp.software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Eligible_Virtualization_Technology.pdf

- (2) お客様の全世界の「エンタープライズ」の従業員および契約社員の数が1,000人未満で、お客様はサービス・プロバイダーではなく、かつ、対象仮想化環境の管理契約をサービス・プロバイダーと締結していない場合。なお、すべてのサービス・プロバイダーは必ずILMTを使用しなければなりません。サービス・プロバイダーは、直接あるいはリセラー経由を問わず、エンド・ユーザーのお客様に対してITサービスを提供する事業体を意味します。

- (3) サブキャパシティー条件で使用許諾を受けているが、フルキャパシティーを元に算出したお客様の全世界のエンタープライズ内の対象仮想化環境を有したサーバーの物理キャパシティーの合計が、1,000 PVU未満である場合。

- (4) 対象サブキャパシティー製品が、サーバーのフルキャパシティーに対して使用許諾されている場合。

→ 対象サブキャパシティー製品

 ftp.software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Sub_Capacity_Eligible_Programs.pdf

Q5

もしILMTが、対象仮想化テクノロジーをサポートしていない場合でも、ライセンスの使用状況を追跡、照合し、レポートを作成する必要がありますか？

A5

はい、必要があります。使用している対象仮想化テクノロジーのガイドと、Counting Software licenses using specific Virtualization Technologiesで提供の、マニュアル作業用のレポート・サンプル（表計算シート）を参照してレポートを作成してください。Essentialsの下のManual Calculation of Virtualization Capacityからダウンロード可能です。

→ Counting Software licenses using specific Virtualization Technologies

 ibm.com/software/lotus/passportadvantage/Counting_Software_licenses_using_specific_virtualization_technologies.html

Q6

サブキャパシティー対象製品の導入をサーバーのフルキャパシティーまで増加させた場合でも、ILMTはまだ必要ですか？

A6

そのフルキャパシティーまでの増加が一時的なものであれば、ILMTは引き続きそのサーバーと区画を監視する必要があります。もし永続的にフルキャパシティーまで増加させるのであれば、ILMTは必ずしも必要ではありません。しかしIBMは特にそのサーバーが対象仮想化テクノロジーを使用している場合、アセット管理者の認識のないとことで”永続的な”構成が変更される可能性があるため、そのサーバーと区画が引き続きILMTにより監視されることを推奨します。

Q7

サブキャパシティー・ライセンスはパスポート・アドバンテージとパスポート・アドバンテージ・エクスプレスの両方で利用可能ですか？

A7

はい、利用可能です。

Q8

もしお客様が区画のキャパシティーを減らした場合、余ったPVUライセンスを他で使用することができますか？

A8

はい、できます。ただし、エンタープライズ内に限ります。

Q9

サブキャパシティー・ライセンスは、パスポート・アドバンテージ - サービス・プロバイダーに関する特則に同意しているサービス・プロバイダーも利用可能ですか？

A9

はい、利用可能です。ただし、サービス・プロバイダーは以下の例外条件の適用を受ける資格がありません。パスポート・アドバンテージご契約条件の「3.2.2 サブキャパシティー・ライセンスの条件に基づくお客様の責任」の『(2) お客様の「エンタープライズ」の従業員数および契約社員の数 が1,000人未満で、お客様は「サービス・プロバイダー」ではなく、かつ、「対象仮想化環境」の管理契約を「サービス・プロバイダー」と契約していない場合』

→ [パスポート・アドバンテージご契約条件](#)

public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/PA_Agreements/PA_Agreement_Japanese.pdf

Q10

サブキャパシティー条件では四半期ごとのレポート作成が認められていますが、なぜILMTのレポート期間は月次に初期設定されているのですか？

A10

サブキャパシティー条件は、ILMTからのレポートを、分析、照合、署名するための最長期間を四半期としています。ほとんどのお客様は、初期設定の通り、月次でこの作業が必要になるでしょう。非常に動的なサーバー環境であったり、区画が頻繁にサイズ変更/移動する場合、および/または、ソフトウェアの変更がある場合は、使用量の変更に対応するため週次でレポート作成する必要があるかもしれません。最も安定した仮想化サーバー環境をもつお客様だけが、四半期ごとのレポートでIBMライセンス条件の遵守を維持できるでしょう。

Q11

なぜサブキャパシティー条件とILMTは定期的な（週次、月次、四半期）レポート作成を必須としているのですか？

A11

安定しているフルキャパシティーで使用許諾するサーバー環境と比較し、プロセッサ・コア・キャパシティーがすぐさま変更される仮想化サーバー環境でソフトウェアをサブキャパシティー・ベースで柔軟に使用許諾することは、IBMにとってより多くのリスクを負うこととなります。IBMはお客様がIBMライセンス条件の遵守を維持できるように、サブキャパシティー・オファリングにはILMTを必須としています。

しかし、ILMTは単にデータを提供するだけなので、お客様は必ずその後分析、照合、そして継続的な遵守を示すレポート作成しなければなりません。ITの資産管理は財政規律で、これらのレポートを作成することは、お客様が会計台帳作成のため、分析、照合、および財務報告書を作成することと非常に似た考え方からきています。

Q12

IBMビジネス・パートナーまたはサービス・プロバイダーは、ライセンス条件の遵守に関してお客様を支援することができますか？

A12

はい、ビジネス・パートナーまたはサービス・プロバイダーは、ライセンス条件遵守に関してお客様を支援することができます。多くのパスポート・アドバンテージのリセラーは付加価値サービスとしてライセンス管理を提供します。しかしながら、ライセンスの権利を所有する事業者（この例ではエンド・ユーザーのお客様）がサブキャパシティー条件への遵守を最終的に確認する責任があります。言い換えると、お客様はたとえその作業を委任しても、その責任を放棄することはできません。

Q13

IBMにはお客様のソフトウェア・ライセンスのご使用状況を監査する権利がありますか。

A13

はい、あります。パスポート・アドバンテージご契約条件の「1.16 遵守状況の確認」に基づき、IBMはお客様のソフトウェア・ライセンスの使用状況を監査することができます。

→ [パスポート・アドバンテージご契約条件](#)

public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/PA_Agreements/PA_Agreement_Japanese.pdf

Q14

区画のプロセッサ・コアのキャパシティーが追加のワークロードにより一時的に増加する場合のライセンス・ポリシーはどうなっていますか？

A14

IBMソフトウェアが利用可能な、PVUで計測される最大限またはピークのプロセッサ・コア・キャパシティーを増加させるには、追加のPVUライセンスのエンタイトルメントが必要です。IBMのライセンス条件では、お客様はそのソフトウェアが利用可能なプロセッサ・コア・キャパシティーを増加させる前に、追加のエンタイトルメントを取得することとなっています。ILMTはプロセッサ・コア・キャパシティーの変更を監視し、それをレポートします。それにより、お客様は“最高使用量”をカバーするのに十分なエンタイトルメントを取得してきたかを確認できます。IBMのライセンス条件はプロセッサ・コア・キャパシティーを平均化することを認めておらず、また、ワークロードの一時的な急増に対して猶予期間を付与するといった条件也没有ありません。

Q15

契約条件を後追いで遵守するために設けられた猶予期間はありますか？

A15

いいえ、ありません。IBMのライセンス条件では、ライセンス不足を調整するための猶予期間は設けていません。さらに、PVUのライセンス条件は、使用量に基づいたものではありません。フルキャパシティー、サブキャパシティーのPVUライセンス条件では、サーバー/クラスター・サーバー（フルキャパシティーの場合）または区画（サブキャパシティーの場合）に対する最大（ピーク）時のプロセッサー・コアのキャパシティーに対するライセンスの取得が、そのキャパシティーを実装または増加させる前に必要としています。ILMTは仮想化サーバー環境を継続的に監視し、ソフトウェア製品、区画ごとにPVUの最大使用量をレポートします。このレポート結果と取得しているライセンス数を比較することで、使用許諾範囲内での使用を確認することができます。

Q16

サブキャパシティー・ライセンスに関する特則に記述の、“「対象サブキャパシティー製品」の「仮想化キャパシティー」を増加させる”とは何を意味しますか？

A16

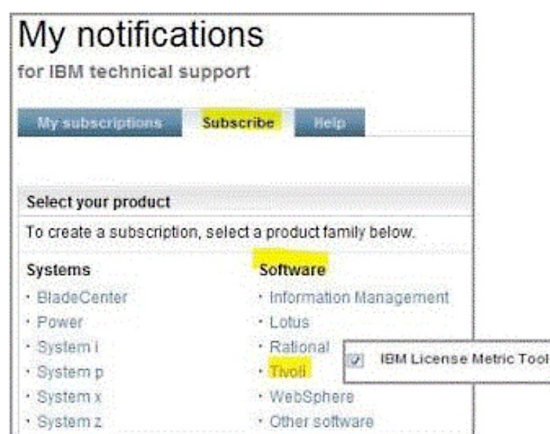
そのような増加は、そのソフトウェアが利用可能なPVUで測定される最大プロセッサー・コア・キャパシティーを増加させるとき、マシンあるいは区画を稼働させているプロセッサー・コアの数がPVUエンタイトルメントを超えると、あるいはサーバー上の他の区画でそのソフトウェアを利用可能にするときに起こります。

Q17

ILMTのアップデートが入手可能になった際に通知を受けるために、IBMのMy Notificationsのサイトでどのように登録すればいいですか？

A17

お持ちのIBM IDで My Notificationsにログインしたあと、‘Subscribe’ のタブをクリックし、Softwareの下にある“Tivoli”を選択します。次の画面で‘IBM License Metric Tool’を見つけ、ボックスにチェックマークを入れてください。



IBM IDをお持ちでない場合は、My IBM 登録からご登録ください。

→ My Notifications

ibm.com/support/mynotifications

→ My IBM 登録

ibm.com/account/profile/jp?page=reg

ライセンス管理ツール：ライセンス管理ツール (ILMT) についてよくある質問

Q1

ILMTの使用はサブキャパシティー・ライセンスの必須要件ですか？

A1

お客様が例外条件のいずれかに該当しない限り、ILMTの使用は必須要件です。なお、サブキャパシティー・オフリングの条件で必要とされるILMTの代わりとして、有償版のTivoli Asset Discovery for Distribution (TADd) を使用することも可能です。

Q2

IBM License Metric Tool (ILMT) はいつから利用可能になりましたか？

A2

ILMTは、2008年7月2日に発表されました。ILMTは前身のITLCM for IBM SWとITLMに置き換わる無償のツールです。

ILMTが利用可能になったことに伴い、2007年に一時停止となっていたITLCM使用という要件は取り消され、既存のサブキャパシティーのお客様はそれ以降ILMTの使用が必須となりました。

→2008年7月2日に発表

ibm.com/common/ssi/ShowDoc.wss?docURL=/common/ssi/rep_ca/4/760/TIV08044/index.html&lang=ja&request_locale=ja

→2007年に一時停止となっていたITLCM使用という要件

ibm.com/common/ssi/ShowDoc.wss?docURL=/common/ssi/rep_ca/0/760/SWG07020/index.html&lang=ja&request_locale=ja

Q3

サブキャパシティー・ライセンス適用の必須条件の1つであるILMT使用に対する例外条件は何ですか？

A3

以下の4条件のいずれかに該当する場合、ツールの使用は必須ではありません。

(1) ILMTがお客様の「対象仮想化環境」をまだサポートしていない場合。フィックス、新バージョン、リリース、モディフィケーションにより、その環境がサポートされるようになった際は、90日以内にILMTを導入する必要があります。お客様は、My Notificationsから購読手続きをすることにより、ILMTによる対象仮想化テクノロジーのサポート開始の通知を受けなければなりません。パスポート・アドバンテージのサイトで公開のEligible Virtualization Technologyも合わせてご参照ください。なお、「対象仮想化環境」は、PA/PAEのご契約条件の定義によります。

→ My Notifications

ibm.com/support/mynotifications

→ Eligible Virtualization Technology

ftp.software.ibm.com/software/passportadvantage/SubCapacity/Eligible_Virtualization_Technology.pdf

(2) お客様の全世界の「エンタープライズ」の従業員および契約社員の数が1,000人未満で、お客様はサービス・プロバイダーではなく、かつ、対象仮想化環境の管理契約をサービス・プロバイダーと締結していない場合。なお、すべてのサービス・プロバイダーは必ずILMTを使用しなければなりません。サービス・プロバイダーは、直接あるいはリセラー経由を問わず、エンド・ユーザーのお客様に対してITサービスを提供する事業体を意味します。

- (3) サブキャパシティー条件で使用許諾を受けているが、フルキャパシティーを元に算出したお客様の全世界のエンタープライズ内の対象仮想化環境を有したサーバーの物理キャパシティーの合計が、1,000PVU未満である場合。
- (4) 対象サブキャパシティー製品が、サーバーのフルキャパシティーに対して使用許諾されている場合。

Q4

IBMのツールと同じ情報を提供できるツールをすでに導入しているのですが、それでもILMTの使用が必要でしょうか？

A4

はい、必要です。ソフトウェアのインベントリーや物理サーバーあるいは物理/仮想区画で利用可能なプロセッサ・コア・タイプを判別できるツールは多くありますが、ILMTおよびTivoli Asset Discovery for Distributedは、IBMソフトウェアが利用可能な最大（ピーク時の）キャパシティー数を計測するために、仮想化サーバー環境を継続的に監視することができる唯一のツールです。PVUで計測されたその必要数をレポートすることができます。

Q5

ILMTの導入免除要件に該当し、マニュアルで使用状況の追跡およびレポート作成をしているお客様は、マニュアル作業を補うためにどのようなツールを使用できますか？

A5

マニュアル作業によるカウント、レポート作成といった要件は、ソフトウェア製品ごとのピーク時のPVUキャパシティーを正確に計測できるのであれば、他のツールによって補われるかもしれません。しかしながら、このような環境のデータは、オペレーティング・システム、仮想化テクノロジー、変更管理ログなどによって提供される何らかの方法を用い、必ずマニュアル作業で把握していただく必要があります。

市場には単純にソフトウェア・インベントリーのスキャンを行える製品や、数は多くはありませんが、サーバー上のプロセッサ・コアのタイプ（取得が必要なライセンス数を決定するため必要な情報）を判別できるソリューションが存在します。しかし、それらはILMTとは違い、IBMのPVUに基づくソフトウェアが利用可能な最大（ピーク時の）キャパシティーを把握するための、仮想化区画のプロセッサ・コア・キャパシティー変化の継続的監視を提供することができません。

もしサーバーの基本的なハードウェア・プロセッサ・コアやソフトウェア・インベントリー情報を把握するために、ILMTがサポートしていない、ただし仮想化テクノロジーとしては利用可能な環境において、ILMTを使用しても、ILMTは区画、論理区画、仮想マシン、ドメインに対する正しいデータを生成しません。

Q6

ILMTは自動化ツールですか？

A6

いいえ、違います。ILMTは複雑なサーバー構成にまたがる高度なサーバー仮想化テクノロジーの継続的な監視を行う目的で設計されたサーバー/エージェントに基づくソリューションです。PowerVM、Vmwareなどの複雑な仮想化サーバー・テクノロジーを展開できるお客様のほとんどはILMTを導入することができます。お客様はILMTにITセットの管理プロセスやルールを適用することで管理作業を保管することができます。

Q7

System z ソフトウェアにSCRTが使われるのと同様に、四半期ごとに仮想化環境におけるキャパシティーの使用状況をIBMに報告しなければいけませんか？

A7

いいえ、レポートングに関するご質問は、「全般：サブキャパシティー・ライセンス全般に関するよくある質問」をご参照ください。SCRT (Sub-capacity Reporting Tool) は、System z ソフトウェアのサポートのために使われます。System z ソフトウェアのサブキャパシティー・ライセンスについては、「全般 A5」をご参照ください。

Q8

お客様はどのくらいの期間でILMTを導入しなければなりませんか？

A8

新たにサブキャパシティー・ライセンスを使用する場合は、対象仮想化環境上で最初の対象サブキャパシティー製品を導入してから90日以内に最新のILMTを導入いただく必要があります。またすでにサブキャパシティー・ライセンスを使用されているお客様で、ILMTのバージョンが最新ではない場合は、パスポート・アドバンテージご契約条件の「3.2.3 サブキャパシティー・ライセンスの条件に基づくお客様の責任」に基づき速やかに最新版のILMTへアップグレードする必要があります。

→ [パスポート・アドバンテージご契約条件](#)

public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/PA_Agreements/PA_Agreement_Japanese.pdf

Q9

有償版のITLCMまたはTADdの他にILMTを導入する必要があるということですか？

A9

いいえ、IBMは両方の製品を導入することを求めています。サブキャパシティー・オフリングの条件で必要とされるILMTの代わりとして、Tivoli Asset Discovery for Distributed (TADd) の最新版を使用することも可能です。

Q10

以前の無償版ツールであったIBM Tivoli License Compliance Manager (ITLCM) for IBM Software はサブキャパシティー・オフリングの条件を満たしますか？

A10

いいえ、Tivoli License Compliance Manager for IBM Softwareは現在のサブキャパシティー・ライセンスの使用条件を満たしません。2009年7月31日の「サブキャパシティー・ライセンス -IBM License Metric Tool V7.2の発表と対象仮想化テクノロジーの追加について」の発表に伴い、サブキャパシティー・ライセンスの使用条件のライセンス管理ツールとしてILMT (IBM License Metric Tool) の使用が発表されました。ILMTの使用はパスポート・アドバンテージご契約条件で規定されており、常に最新のバージョン、リリースで運用いただく必要があります。

→ [サブキャパシティー・ライセンス-IBM License Metric Tool V7.2の発表と対象仮想化テクノロジーの追加について](#)

ibm.com/common/ssi/ShowDoc.wss?docURL=/common/ssi/rep_ca/2/760/SWG09022/index.html&lang=ja&request_locale=ja

Q11

IBM Tivoli License Compliance Manager for IBM Softwareはサブキャパシティー・オフリングの条件を満たすように更新されていくのでしょうか？

A11

いいえ、ITLCM for IBM Softwareはすでに出荷停止となっているため更新は行われません。また、その継続使用は現在のサブキャパシティー・オフリングの条件を満たしません。

Q12

ILMTを使用する場合、たとえばWASを持っているお客様は、WASが導入されたすべてのサーバーについてレポートを作成する必要がありますか？

A12

必ずしもそうではありません。IBMは、WASがサーバーの全物理プロセッサ・コア（フル・キャパシティー）よりも少ないキャパシティーで利用可能であり、かつ使用許諾されている仮想化サーバーにILMTを導入することを必要としています。

しかしながら、IBMは、ILMTはフルキャパシティーのサーバー環境の契約遵守を維持するお客様の作業にも役立てていただくため、サーバーのフルキャパシティーに対して使用許諾されているサーバーにもILMTのエージェントを導入することをオプションとしてお奨めします。

Q13

単一区画で稼働するある製品の複数のインスタンスやパッケージを所有している場合、どのようにPVU数を数えますか？

A13

PVUは、IBMミドルウェアが利用可能なプロセッサ・コア・キャパシティーをもとに使用許諾されます。使用許諾の観点からは、区画は稼働している製品の“インスタンス”または“パッケージ”（法律的に定義された用語ではありません）をいくつでも持つことができますが、それら製品インスタンスまたはパッケージはライセンス使用許諾の際のカウント対象ではありません。その製品が利用可能な区画に割り当てられた最大（ピーク）時のプロセッサ・コア数をもとに使用許諾します。インスタンス数の増加により区画のキャパシティーが増加した場合、ILMTはその最大値を記録します。それによりお客様はライセンス条件を遵守しているかを確認できます。

Q14

IBMはILMTを稼働させるのに必要な専用サーバーを提供しますか？

A14

いいえ、基本的なインフラ（サーバー、ネットワークなど）およびILMTを導入、管理するためのリソース準備は、お客様の責任となります。ILMTは、サーバー/区画がハードウェア/ソフトウェア要件を満たす場合、専用区画でも稼働します。詳しくはIBM License Metric Toolをご参照ください。

→  ibm.com/software/products/en/licensemetrictool?S_CMP=rnav

Q15

IBM License Metric Tool (ILMT) はどのように使用許諾されますか？

A15

2011年10月12日発表の「仮想化環境におけるライセンス定義の一部変更のお知らせ」の発表の通り、ILMTサーバーはILMTリージョン単位で構築・運用する必要があります。

- ILMTリージョン1：南北アメリカ
- ILMTリージョン2：ヨーロッパ、アフリカ
- ILMTリージョン3：アジア、オーストラリア

なおPowerVM Live Partition Mobilityなどサブキャパシティーの対象仮想化テクノロジーとしてサポートされたモビリティ環境の場合はILMTリージョン単位でライセンスを取得いただきます。モビリティ環境ではない場合はEstablishment 単位でのライセンス取得が必要です。

→ 仮想化環境におけるライセンス定義の一部変更のお知らせ

ibm.com/common/ssi/ShowDoc.wss?docURL=/common/ssi/rep_ca/4/760/SWG11024/index.html&lang=ja&request_locale=ja

Q16

サブキャパシティー条件では四半期ごとのレポート作成が認められていますが、なぜILMTのレポート期間は月次に初期設定されているのですか？

A16

サブキャパシティー条件は、ILMTからのレポートを、分析、照合、署名するための最長期間を四半期としています。ほとんどのお客様は、初期設定の通り、月次でこの作業が必要になるでしょう。非常に動的なサーバー環境であったり、区画が頻繁にサイズ変更/移動する場合、および/または、ソフトウェアの変更がある場合は、使用量の変更に対応するため週次でレポート作成する必要があるかもしれません。最も安定した仮想化サーバー環境をもつお客様だけが、四半期ごとのレポートでIBMライセンス条件の遵守を維持できるでしょう。

Q17

「監査レポートは正式文書であることを保証するために必ず署名が必要」という条件がついている監査レポートですが、IBMは誰が適当な署名者と考えますか？

A17

“Signed”は、照合内容が正しいことを保証するためのILMT上のお客様による電子的行為を表しています。詳細につきましては、ILMTインフォメーション・センターの監査レポートの署名をご参照ください。

また、チュートリアルと同様に役に立つユーザーと役割というセクションもご参照ください。

ILMTの導入免除条件に該当するお客様も、最低でも四半期に一度、マニュアル作業による追跡、照合、レポート作成の結果を、必ず確認および承認する必要があります。

→ ILMTインフォメーション・センター

pic.dhe.ibm.com/infocenter/tivihelp/v31r1/index.jsp


- 監査レポートの署名

publib.boulder.ibm.com/infocenter/tivihelp/v31r1/topic/com.ibm.license.mgmt.admin.doc/t_signing_audit_reports.html

- チュートリアル

publib.boulder.ibm.com/infocenter/tivihelp/v31r1/topic/com.ibm.license.mgmt.admin.doc/t_signing_audit_reports.html

■ ユーザーおよび役割

 publib.boulder.ibm.com/infocenter/tivihelp/v31r1/topic/com.ibm.license.mgmt.security.doc/c_users_and_roles.html

Q18

ILMTに特化したFAQはどこで確認できますか？

A18

ILMT FAQ s をご覧ください。

→  ibm.com/software/lotus/passportadvantage/subcapfaqilmt.html

Q19

ILMTの要件はどこで確認できますか？

A19

IBM License Metric Tool ページをご覧ください。

→  ibm.com/software/products/en/licensemetrictool?S_CMP=rnav

Q20

ILMT は正常に稼動していればバージョンアップは不要ですか？

A20

ILMT 環境の構築・運用を含めたサブキャパシティー・ライセンスの使用条件は、パスポート・アドバンテージご契約条件の「3.2 仮想化環境におけるプログラム」で規定されています。ILMTのバージョンについては以下の通り常に最新の状態でご使用いただくように規定されており、仮想化環境上でサブキャパシティー対象製品を使用される場合はお客様はこの条件を遵守いただく必要があります。

『お客様はILMTの新規バージョン、リリース、修正またはコード訂正（以下「フィックス」といいます）がIBMから提供された場合はすみやかに導入するものとします。これらが提供された場合に通知を受けるためお客様はMy NotificationからTivoli製品のSubscriptionを申し込む必要があります。』

→ [パスポート・アドバンテージご契約条件](#)

 public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/PA_Agreements/PA_Agreement_Japanese.pdf

→ [My Notifications](#)

 ibm.com/support/mynotifications

ご注文：サブキャパシティー・ライセンスと管理ツールのご注文についてよくある質問

Q1

お客様はどのようにしたらサブキャパシティー・ライセンス対象の製品を注文することができますか？

A1

2011年7月19日のパスポート・アドバンテージご契約条件の改定によりサブキャパシティー・ライセンスの利用条件は本契約に包含されました。それより特則への合意は必要なくなりましたので、通常のPVUパーツ番号を使用して注文いただくことができます。

Q2

IBMはサブキャパシティー専用のパーツ番号を用意していますか？ もしそうであれば、その番号はソフトウェア・サブスクリプション&サポートのパーツ番号にも適用されますか？

A2

2009年4月8日付けの発表をもって、以前存在していたサブキャパシティー専用のパーツ番号を廃止し、同じPVUに基づくパーツ番号が、フルキャパシティー、サブキャパシティーの両環境で使用できるようになりました。

→2009年4月8日付けの発表

 ibm.com/common/ssi/ShowDoc.wss?docURL=/common/ssi/rep_ca/9/760/SWG09009/index.html&lang=ja&request_locale=ja

Q3

お客様はどのようにしたら IBM License Metric Toolを入手できますか？

A3

ILMTは無償での製品提供となりますが、ライセンスおよびソフトウェア・サブスクリプション&サポートをIBM内で情報として記録するために、必ず発注していただく必要があります。それにより他のパスポート・アドバンテージ製品に対して提供されるのと同じ内容の技術サポートを利用することが出来ます。ライセンスとソフトウェア・サブスクリプション&サポートを取得すると、PAオンラインからプログラムをダウンロードしたり、メディア・パックを 要求することができます。

・ パーツ番号情報（バージョンを問わず共通）

D561HLL : IBM License Metric Tool per Establishment
ライセンス (ソフトウェア・サブスクリプション&サポート付)

E027NLL : IBM License Metric Tool per Establishment
継続ソフトウェア・サブスクリプション&サポート

D561ILL : IBM License Metric Tool per Establishment
新規ソフトウェア・サブスクリプション&サポート

BJ0Z8ML : License Metric Tool V7.50 Multiplatform Multilingual Media Pack
メディア・パック

メディア・パックはライセンスおよび有効なソフトウェア・サブスクリプション&サポートがあれば1サイトにつき1セットを無償でご発注いただけます。

Q4

なぜお客様はILMTを注文する必要がありますか？単にダウンロードすることはできないのですか？

A4

シンプルなダウンロード製品は、ほとんどの場合、保証適用外で提供されますが、サポートが提供されたとしても、ごくわずかなテクニカル・サポートしか提供しません。IBMは、他のミッションクリティカルなミドルウェアに対して提供しているのと同じサポートをILMTに対しても提供します。ILMTは無償での製品提供となりますが、ライセンスおよびソフトウェア・サブスクリプション&サポートに対するIBM内の情報として記録するために、必ず注文していただく必要があります。

Q5

なぜ無償製品のソフトウェア・サブスクリプション&サポートを更新する必要があるのですか？

A5

パーツ番号 E027NLLを使ったソフトウェア・サブスクリプション&サポートの更新は、お客様が製品のアップデート/アップグレードや技術サポートを受ける場合に必要です。ILMTを最新の状態にしておくことはサブキャパシティー・オフリングの条件であり、ILMTの使用が必須のお客様は、ソフトウェア・サブスクリプション&サポートの更新は必須となります。

Q6

サブキャパシティー・ライセンスを利用するにあたり、追加料金は発生しますか？

A6

対象製品にサブキャパシティー条件を適用するにあたって、お客様に対して追加ライセンス料金は請求しません。IBMはILMTを無償で提供します。お客様は基本的なインフラ（サーバー、ネットワークなど）やILMTを導入し、管理するための費用および要員を確保する責任があります。PowerVMやVMwareといった複雑な仮想化サーバー・テクノロジーを展開することができるお客様のほとんどは、ILMTを導入することができるでしょう。

Q7

サービス・プロバイダーは、PVUベースでライセンスを保有しているエンド・ユーザーをサポートする場合に、ILMTを入手することができますか？

A7

はい、エンド・ユーザーのお客様が、サブキャパシティー方式で使用のPVUライセンスを管理するためILMTを導入する必要がある場合、サービス・プロバイダーは、サービス・プロバイダーのホスト・サーバーにILMTのエージェント・コードを導入する目的でILMTを注文することが可能です。そのホスト・サーバーはエンド・ユーザーのILMTサーバーに接続します。

コンプライアンス：ライセンス条件遵守に関するよくある質問

Q1

IBMにはお客様のソフトウェア・ライセンスのご使用状況を監査する権利がありますか？

A1

はい、あります。パスポート・アドバンテージご契約条件の「1.16 遵守状況の確認」に基づき、IBMはお客様のソフトウェア・ライセンスの使用状況を監査することができます。

→ [パスポート・アドバンテージご契約条件](#)

 public.dhe.ibm.com/software/passportadvantage/PA_Agreements/PA_Agreement_Japanese.pdf

Q2

IBMはお客様がサブキャパシティーの条件を遵守していることをどのように判断しますか？

A2

サブキャパシティーの条件を遵守することはお客様の責任です。IBMはその遵守状況を確認するため、お客様のIBMソフトウェア製品のご使用状況を監査する権利を保有しています。お客様により状況が異なりますので、監査もそれぞれの環境に合った方法で行います。

Q3

ライセンスの追加取得をせずに、有効なキャパシティーをプロセッサ・コアの追加により増加させた場合どうなりますか？

A3

ライセンス違反となります。契約条件において、お客様はプロセッサ・コアのキャパシティーを増加させる前にライセンスを必ず取得することとなっています。IBMは、プロセッサ・コアが追加された日に遡り、追加分のライセンスとソフトウェア・サブスクリプション&サポートの料金を請求することになります。

Q4

単一区画で稼働するある製品の複数のインスタンスやパッケージを所有している場合、どのようにPVU数を数えますか？

A4

PVUは、IBMミドルウェアが利用可能なプロセッサ・コア・キャパシティーをもとに使用許諾されます。使用許諾の観点からは、区画は稼働している製品の“インスタンス”または“パッケージ”（法律的に定義された用語ではありません）をいくつでも持つことができますが、それら製品インスタンスまたはパッケージはライセンス使用許諾の際のカウント対象ではありません。その製品が利用可能な区画に割り当てられた最大（ピーク）時のプロセッサ・コア数をもとに使用許諾します。インスタンス数の増加により区画のキャパシティーが増加した場合、ILMTはその最大値を記録します。それによりお客様はライセンス条件を遵守しているかを確認できます。

Q5

契約条件を後追いで遵守するために設けられた猶予期間はありますか？

A5

いいえ、ありません。IBMのライセンス条件では、ライセンス不足を調整するための猶予期間は設けていません。さらに、PVUのライセンス条件は、使用量に基づいたものではありません。フルキャパシティー、サブキャパシティーのPVUライセンス条件では、サーバー/クラスター・サーバー（フルキャパシティーの場合）または区画（サブキャパシティーの場合）に対する最大（ピーク）時のプロセッサ・コアのキャパシティーに対するライセンスの取得が、そのキャパシティーを実装または増加させる前に必要としています。ILMTは仮想化サーバー環境を継続的に監視し、ソフトウェア製品、区画ごとにPVUの最大使用量をレポートします。このレポート結果と取得しているライセンス数を比較することで、使用許諾範囲内での使用を確認することができます。